

葛飾区感染症週報（平成 23 年第 51 週）

（この情報は葛飾区サーベイランス情報及び東京都感染症週報をもとに作成しています。）

1．区内感染症の流行状況（平成 23 年 12 月 19 日～12 月 25 日）

病名	前週比較	報告状況
感染性胃腸炎	↑	1 医療機関あたり、1 週間で 17.14 人の患者が報告されています。
乳児嘔吐下痢症	↓	1 医療機関あたり、1 週間で 4.48 人の患者が報告されています。
インフルエンザ	↓	1 医療機関あたり、1 週間で 1.52 人の患者が報告されています。

2．今週注目したい感染症（1） 感染性胃腸炎・乳児嘔吐下痢症

12 月 22 日、東京都福祉保健局は感染性胃腸炎の流行警報を発令しました。ノロウイルスなどを原因とする感染性胃腸炎・乳児嘔吐下痢症は、毎年秋から冬にかけて流行します。

ノロウイルスは感染者の吐物・便に大量に含まれ、処理方法を誤ると、大量に空気中に拡散し、集団感染・集団発生の原因となります。

ノロウイルスは通常のアルコール消毒は効果がなく、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が必要です。東京都によるノロウイルス対応標準マニュアルダイジェスト版を確認しましょう。（東京都のホームページ）

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/noro/files/nmd.pdf>

3．今週注目したい感染症（2） インフルエンザ

葛飾区内で報告されているのはほとんどが A 型で、一部 B 型です。

インフルエンザの予防のポイントは、「手洗い」「咳エチケット」の 2 つです。

特に、咳エチケットを確認しましょう。（東京都のホームページ）

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/cover-cough/index.html>

関連リンク

<http://www.katsushika-med.or.jp/survey.html>（葛飾区医師会感染症情報）

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/index-j.html>（東京都感染症週報）

葛飾区保健所保健予防課

03-3602-1274

感染性胃腸炎の流行警報発令！

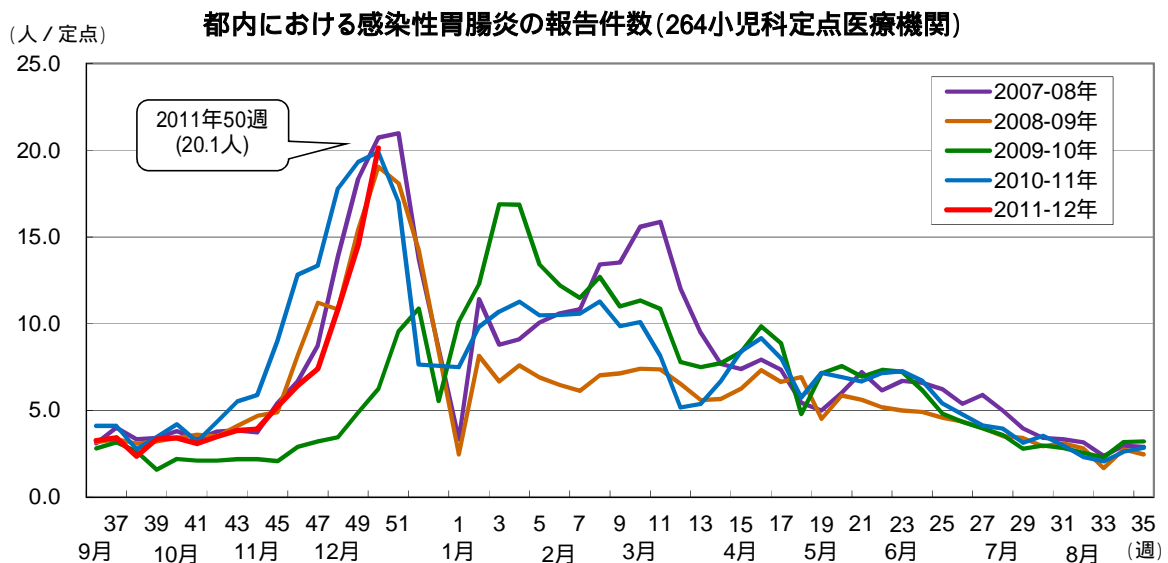
～ ノロウイルス等の感染性胃腸炎の発生状況～

感染性胃腸炎の都内の患者報告数が、流行警報基準*を超えました。手洗い等を徹底し感染予防に努めましょう。

* 流行警報基準：20人/定点を超えた全ての保健所の管内人口の合計が、東京都の人口全体の30%を超えた場合。

< 発生状況 >

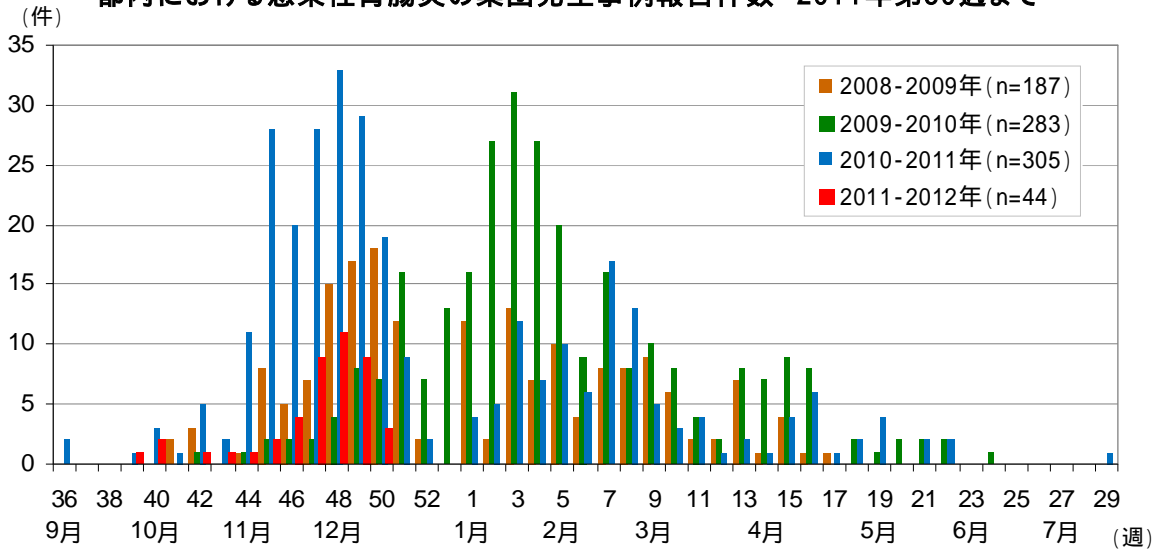
- ・ 都内 264 小児科定点医療機関からの報告による第 50 週（12 月 12 日～18 日）の患者数は 20.1 人 / 定点です。患者報告数が 20.0 人 / 定点を超えたのは都内 31 保健所中 11 保健所で、管内人口の合計は東京都全体の 39.5% になります。
- ・ 今シーズンの都内の施設における集団発生は、12 月 21 日までに 44 件把握されています。（9 月 5 日以降に保健所が把握した事例で、同一施設の患者数が 10 人以上、かつ病原体が検査確認されている事例の集計。食中毒事例を除く。）



上記データは、都内 264 小児科定点医療機関から報告された患者数を報告機関数で割ったものである

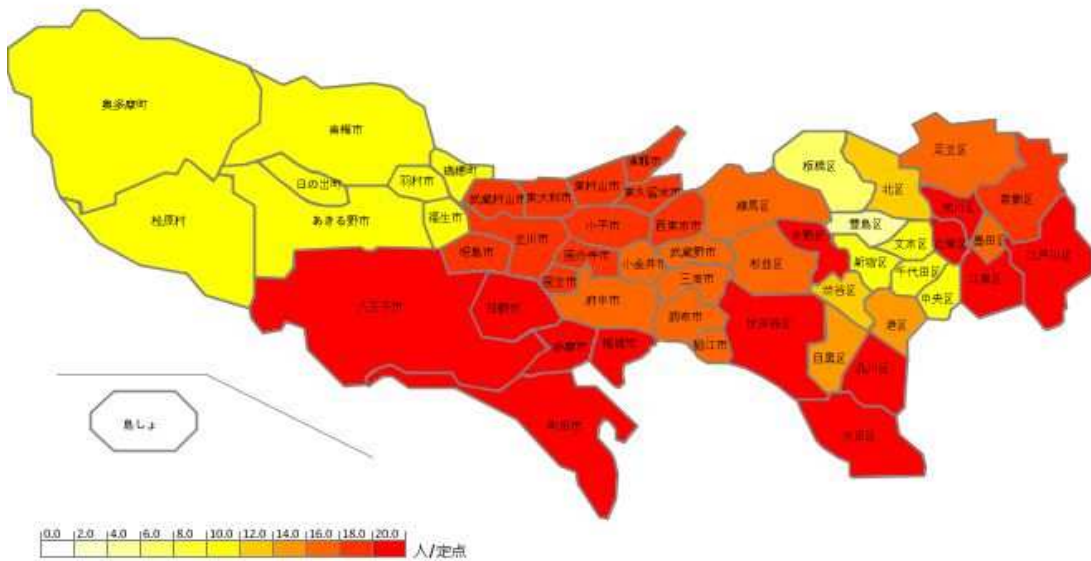
〔参考〕

都内における感染性胃腸炎の集団発生事例報告件数 2011年第50週まで



* 都内の保健所に報告があった感染性胃腸炎事例のうち、同一施設で10人以上の患者が発生し、かつ病原体が検査確認された事例の件数。食中毒と判断された事例を除く。

都内における感染性胃腸炎の保健所別発生状況 2011年第50週



患者数の塗り分けは各保健所の管轄範囲を単位としている。(例：小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市はすべて、管轄する多摩小平保健所の患者数に対応した色で塗り分けられている)

* データ：東京都感染症発生動向調査より <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>

(感染性胃腸炎は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」において、指定医療機関(定点)からの報告を要する五類感染症に指定されている)

感染性胃腸炎について

1 感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。

原因となるウイルスには、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」、「サポウイルス」、「アデノウイルス」などがあり、主な症状は腹痛・下痢、嘔吐、発熱です。「ロタウイルス」、「アデノウイルス」による胃腸炎は、乳幼児に多く見られます。

これらの胃腸炎は、症状のある期間が比較的短く、特別な治療がないことから、ウイルス検査を行わず、流行状況や症状から「感染性胃腸炎」と診断されることもあります。



写真：ノロウイルス
の電子顕微鏡写真

2 原因と感染経路

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、ヒトからヒトへの感染と、汚染した食品を介しておこる食中毒に分けられ、次のような感染経路があります。

感染した人の便や吐物に触れた手指を介してノロウイルスが口に入った場合
便や吐物が乾燥して、細かな塵と舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを取り込んだ場合

感染した人が十分に手を洗わず調理した食品を食べた場合

ノロウイルスを内臓に取り込んだカキやシジミなどの二枚貝を、生または不十分な加熱処理で食べた場合

3 感染性胃腸炎の治療

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎への特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので早めに医療機関を受診することが大切です。特に高齢者は、誤えん（吐物が気管に入る）により肺炎を起こすことがあるため、体調の変化に注意しましょう。嘔吐の症状がおさまったら少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるよう心がけましょう。

4 予防のポイント

最も大切なのは手を洗うことです。特に排便後、また調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心温度 85℃、1 分以上の加熱が必要です）

葛飾区感染症サーベイランス情報 第51週
調査期間 平成23年12月19日～平成23年12月25日

葛飾区医師会 公衆衛生部
感染症サーベイランス班 三尾 仁

年齢別 定点当り集計報告(人数/定点)

疾患名	年齢	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上	合計	予注済(人)	
		咽頭結膜熱	男	0	0	0	0.03	0	0	0.06	0.03	0	0	0	0	0	0	0.13
	女	0	0	0.03	0	0	0	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0.06	0	
溶連菌感染症	男	0	0	0	0	0.06	0.2	0.03	0	0.13	0.06	0.1	0.03	0	0	0.65	0	
	女	0	0	0	0.03	0.03	0.1	0.1	0.17	0.1	0.06	0.06	0.03	0	0	0.72	0	
感染性胃腸炎	男	0.03	0.37	1.13	0.86	0.82	0.44	0.51	0.41	0.37	0.37	0.2	0.65	0.24	1.51	8.00	0	
	女	0.03	0.62	1.44	0.68	0.72	0.44	0.75	0.34	0.27	0.17	0.34	0.51	0.31	2.44	9.13	0	
水痘	男	0.03	0	0.13	0.06	0.1	0	0.03	0.03	0	0.03	0	0	0	0	0.44	2	
	女	0	0.03	0.06	0.06	0.03	0.03	0	0.03	0.03	0	0	0	0	0	0.31	1	
手足口病	男	0	0.03	0.03	0.03	0.03	0	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0.17	0	
	女	0	0.03	0.03	0.03	0	0	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0.13	0	
伝染性紅斑	男	0	0	0	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.03	0	
	女	0	0	0	0	0.03	0	0	0	0.03	0	0	0	0	0	0.06	0	
突発性発疹	男	0.03	0.06	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.10	0	
	女	0	0.13	0.1	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.27	0	
百日咳	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.06	0.06	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.10	0	
風疹	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻疹	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.03	0	0	0	0.03	1	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
MCLS	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明発疹症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
乳児嘔吐下痢	男	0.03	0.31	0.96	0.68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.00	0	
	女	0.03	0.55	1.51	0.37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.48	0	
インフルエンザ		～6月	～12月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29			
	男	0	0	0	0.03	0.03	0	0.03	0.13	0.06	0.1	0.1	0.03	0	0			
	女	0	0	0	0	0	0	0.13	0.17	0.06	0.13	0.1	0.03	0	0			
	年齢	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	予注済(人)									
	男	0	0.03	0	0	0	0	0.58	3									
女	0.03	0.1	0.03	0	0	0	0.93	5										

支部別 定点当り報告件数(人数/定点)

	咽頭結	溶連菌	胃腸炎	水痘	手足口	リンゴ	突発性	百日咳	風疹	ヘルパ	麻疹	耳下腺	MCLS	不明発	乳児嘔	インフ
堀切	0	0	11.75	0.75	0	0.75	0	0	0	0	0	0.0	0	0	2.50	1.50
亀有	0	1.33	32.67	2.67	0	0	1.00	0	0	0	0	0.33	0	0	7.00	1.00
金町	0.60	3.60	21.00	0.20	0	0	1.00	0.20	0	0	0	0	0	0	9.00	0.80
高砂	0.75	0.25	14.75	0	2.00	0	0.25	0	0	0	0	0	0	0	3.50	1.50
青戸	0	0.75	12.25	0	0	0	0.25	0.50	0	0	0	0	0	0	1.75	0.50
立石	0	3.00	17.67	0.33	0.33	0	0	0.67	0	0	0	0	0	0	6.33	4.33
四つ木	0	0.50	9.50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.00	0
新小岩	0	1.00	16.75	2.25	0	0	0.25	0	0	0	0	0	0	0	3.00	2.50

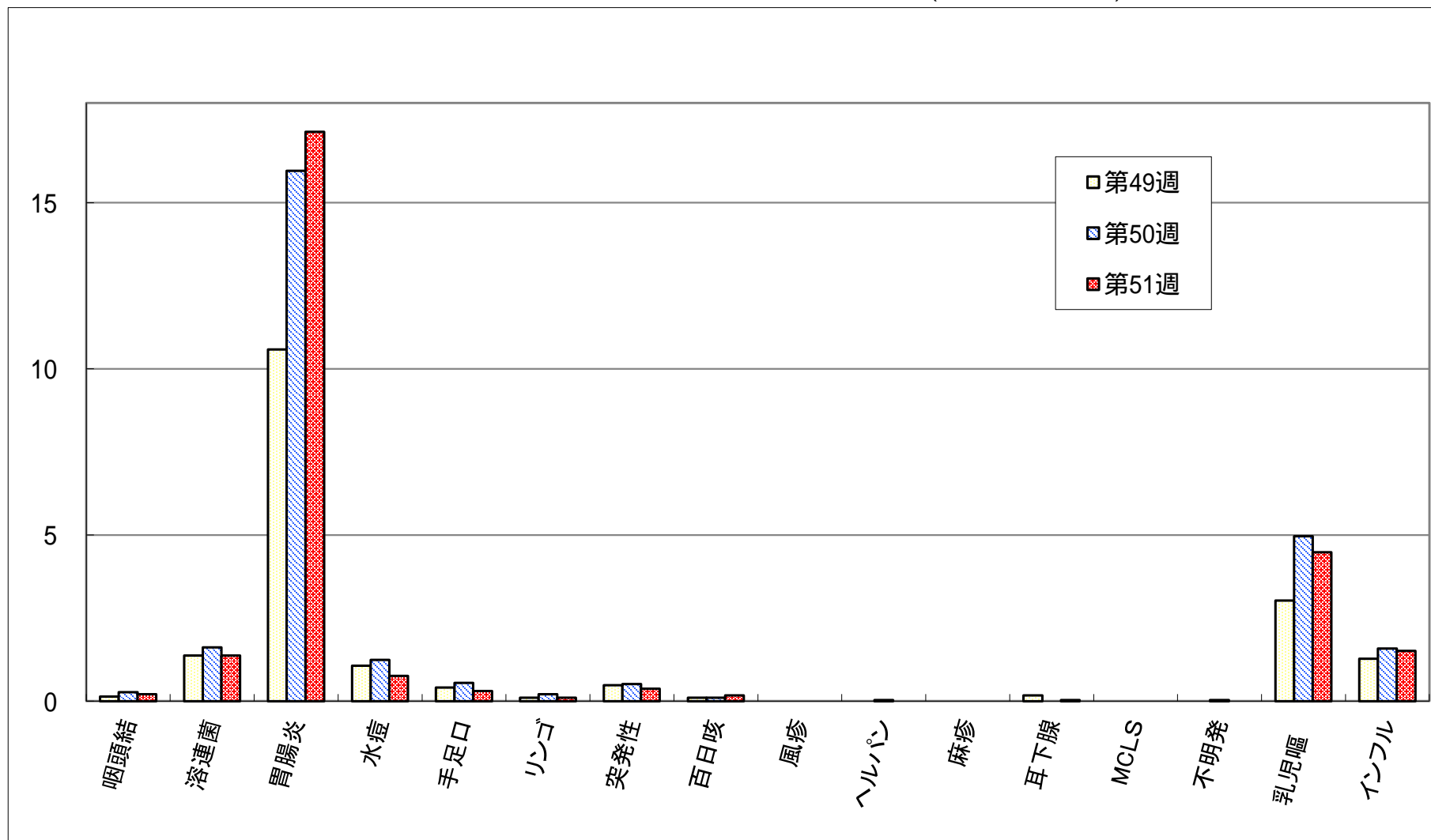
【調査票通信】

RS気管支炎;1才1ヶ月 (堀切)、4ヶ月 RSウイルス感染症;1才 (金町)、8ヶ月 (高砂)
アデノウイルス;7 (亀有) アデノ扁桃腺炎;1、2、5 (金町)
マイコプラズマ肺炎;9 (金町)、女性1名 (堀切)
インフルエンザ;A型38名、B型3名、不明3名

【コメント】

インフルエンザ、感染性胃腸炎は横ばいです。

葛飾区感染症サーベイランス情報3週分、定点当たり(人数/定点)男女合計



	咽頭結	溶連菌	胃腸炎	水痘	手足口	リンゴ	突発性	百日咳	風疹	ヘルパン	麻疹	耳下腺	MCLS	不明発	乳児嘔	インフル
第49週	0.14	1.38	10.59	1.07	0.41	0.10	0.48	0.10	0	0	0	0.17	0	0	3.03	1.28
第50週	0.28	1.62	15.97	1.24	0.55	0.21	0.52	0.10	0	0.03	0	0	0	0.03	4.97	1.59
第51週	0.21	1.38	17.14	0.76	0.31	0.10	0.38	0.17	0	0	0	0.03	0	0	4.48	1.52